

～学びと育ちの連続性～

浦幌小中一貫便り

平成26年2月5日 (No.13)



浦幌町教育委員会
浦幌町教育研究所

教育研究所から

～中間答申に向けて～

■ 昨年の4月26日、教育委員会から研究所に対して「浦幌町の小中一貫教育（コミュニティ・スクール）の推進方針について」の諮問がありました。主な諮問事項としては、① 小中一貫教育のねらいや効果 ② 9年間

を見通した連続性・一貫性のある教育課程の編成 ③ 児童生徒や教職員の交流 ④ コミュニティ・スクールの役割 ⑤ 小中一貫教育の推進組織及び進め方 の5つです。そこで、今年度は先進地の調査・研究と連続性・系統性がある「ふるさと学習（仮称）」の教育課程編成を中心に行ってきました。現在、中間答申に向けて所内で協議・検討しているところです。尚、今年度の3月に中間答申、次年度の3月に最終答申を出す予定になっています。

■ 浦幌町の子どもの実態に基づき、現在行っている浦幌町の特色ある教育活動を生かした小中一貫教育を展開するため3つの柱を考えています。

- ・ 連続性・系統性のある「ふるさと学習」の推進
- ・ 基礎基本が身に付く算数・数学の教育課程の編成
- ・ 15歳の生徒像を共有したキャリア教育

ふるさと学習（浦幌地区）の系統表

全道ジョイント・プロジェクト協議会の報告 ～西川教授の講演～

■ 「浦幌小中一貫便り」(No.12) で久門教育長からも報告がありました協議会に参加してきました。特に、全国的に活躍されている京都産業大学教授の西川信廣先生の講演は、これから小中一貫教育を浦幌町が進めていく上で参考になる点が多くありましたので、いくつか紹介します。

- 「小中連携は、第一段階、やがて一貫教育になればいい」は5年ほど前までの考え方で、「腰の引けた連携教育」である。 ⇒ 連携から一貫へ
- 中央集権⇒地方分権⇒地域（学校）主権
「新しい公共（共創）」・・・地域住民が参画し、行政とともに創る公共サービスが必要。学校も例外ではない。 ⇒ コミュニティ・スクールの意義
- 学ぶ意欲がない子をどうするか。「学ぶ意味」を育てる。そのために「生き方探求教育」を通して、自尊感情や自己肯定感を高める。 ⇒ キャリア教育の意義と必要性
- 小中一貫教育、小学校の教職員と中学校の教職員が助け合い、支え合うネットワークづくり ⇒ 地域から信頼される学校づくり

（文責：浦幌町教育研究所 森 雅仁）